

入植し120年の地区で

卒業生と恩師が 母校で再会

60年前に富岡小学校を出た8人の卒業生と担任だった先生が6月10日に母校を訪れ、懇親を深めました。



開校103年を迎えた
富岡小学校の校章

卒業生と担任の先生が来校

昭和23年3月に巣立った富岡小第42回卒業生がクラス会を開き、11名のうち8名が出席。1年と6年生の時の担任だった2名の先生も同席し、学校の会議室は当時の出来事に話が弾んでいました。

多忙だった教員生活

「12月に軍隊に召集されるまでの8か月ほどでしたが、無我夢中な日々だった」と話すのは1年生を受け持った明石富雄先生（追分本町）。

明石先生が赴任するまで60名以上の児童を1人の教師が教えていたと教員時代を振り返ります。

6年生の担任だった佐々木正先生（早来北町）は、地域



挨拶する佐々木先生。
左は明石先生

の要請を受け1年間という条件で教壇に立ちました。「小さな教室にたくさんの子供たち、何を教えたか覚えていない」と戦後の混乱期のように話を語っていました。

その後、佐々木先生は教員免許を取得し、早来小学校を振り出しに多くの子どもたちを指導。平成2年に遠浅小学校で退職したとのこと。教職の道の出発点が富岡小学校、だといえます。



壁に貼られた写真や賞状を見入る

在校生が全員で歓迎

全校児童20名がYOSAKOIソーランの舞踊を演じ自分たちの先輩たちを歓迎。佐々木先生の弟で卒業生でもある佐々木功さんが在校生の前で8名の方一人ひとりを紹介しました。

最後に、「本の購入代に使ってください」と卒業生代表から図書券の目録が児童会長に渡されました。



卒業生から図書券を贈呈



在校生と一緒に記念撮影